

PL. 10 生物相調査 無脊椎動物 (昆虫類)



ウスバシロチョウ (アゲハチョウ科)

富士山では1978年に記録されて以後、分布を拡大している。撮影：渡辺通人



ヤマキチョウ (シロチョウ科)

富士北麓での主要な発生地は限定的と考えられる。撮影：渡辺通人



ギンボシヒョウモン (タテハチョウ科)

富士北麓では標高900m以上に生息、減少傾向にある。撮影：渡辺通人



フタスジチョウ (タテハチョウ科)

富士山を分布の南限とする、個体数も激減している。撮影：渡辺通人



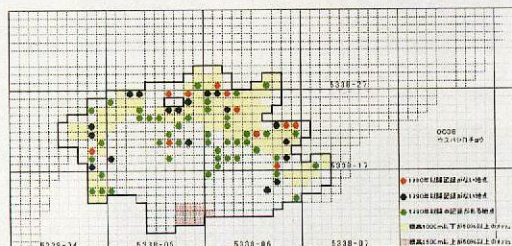
ヤマキマダラヒカゲ (ジャノメチョウ科)

富士山の山地帯を代表する蝶。撮影：渡辺通人

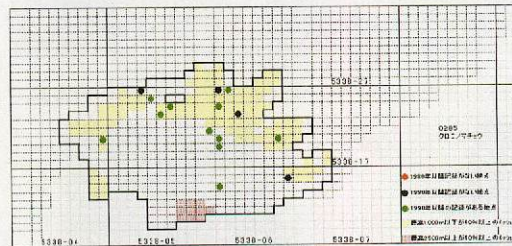


クロコノマチョウ (ジャノメチョウ科)

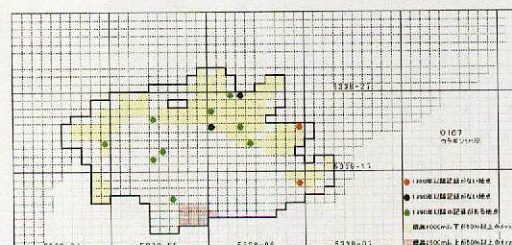
分布を拡大していると考えられる。撮影：渡辺通人



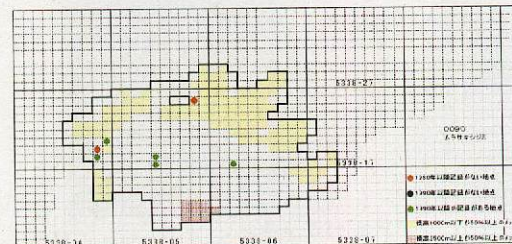
1 ウスバシロチョウの分布図



2 クロコノマチョウの分布図

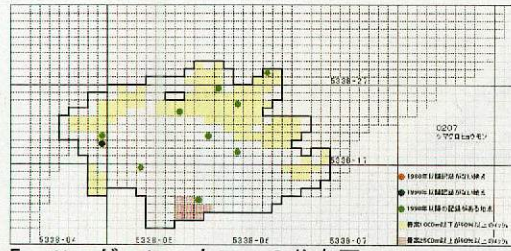


3 ウラギンジミの分布図

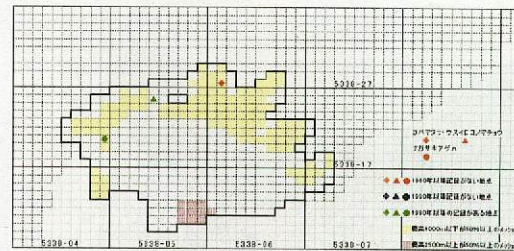


4 ムラサキンジミの分布図

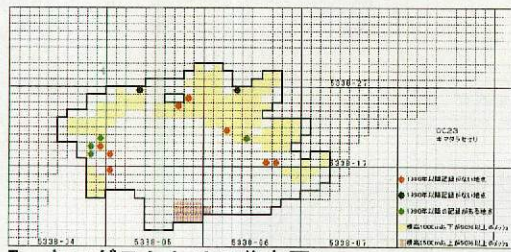
PL. 11 生物相調査 無脊椎動物 (昆虫類)



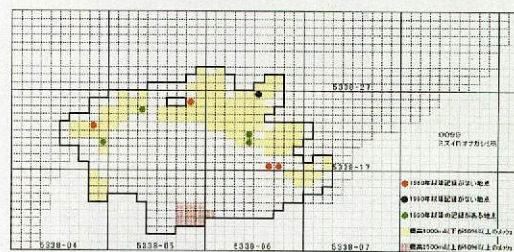
5 ツマグロヒヨウモンの分布図



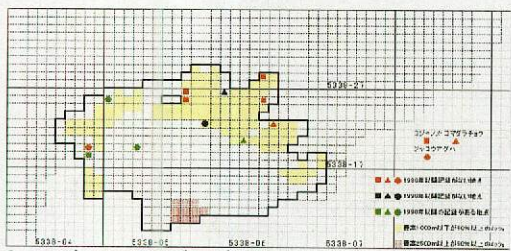
6 カバマダ・ウスイロコノマチョウ・ナガサキアゲハの分布図



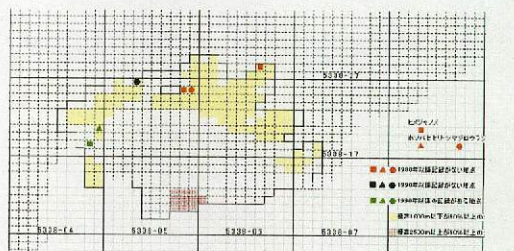
7 キマダラセセリの分布図



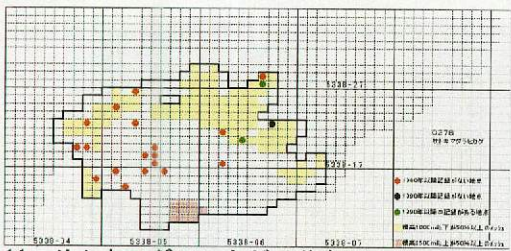
8 ミズイロオナガジミの分布図



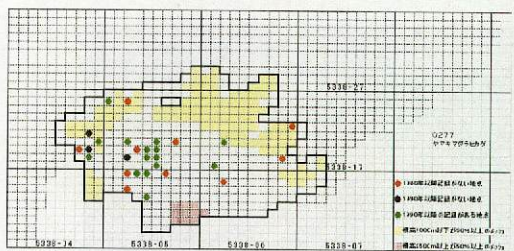
9 コジャンメ・ゴマダラチョウ・ジャコウアゲハの分布図



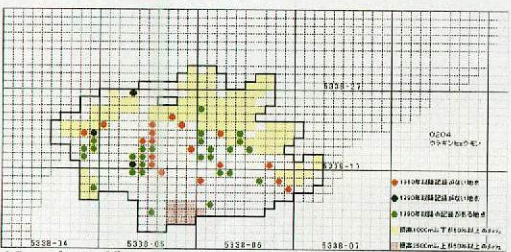
10 ヒメジャンメ・ホソバセセリ・ツマジロウラジヤノメの分布図



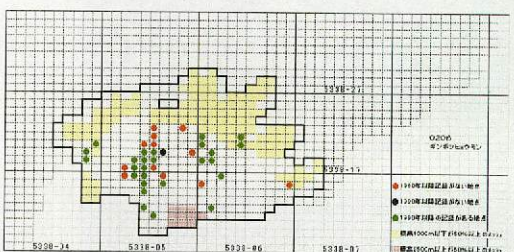
11 サトキマダラヒカゲの分布図



12 ヤマキマダラヒカゲの分布図



13 ウラギンヒヨウモンの分布図



14 ギンボシヒヨウモンの分布図

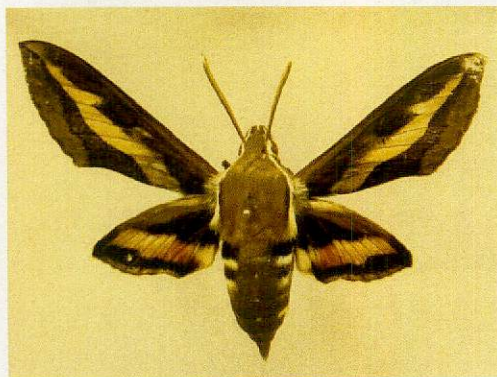
凡例

- ▲ ● 1980年以降記録がない地点
- ▲ ● 1990年以降記録がない地点
- ▲ ● 1990年以降の記録がある地点
- 標高1000m以下が50%以上のメッシュ
- 標高2500m以上が50%以上のメッシュ

分布図の説明は本文(第二部)を参照



アケビコノハ (ヤガ科)
標高 3,200m のみで確認. 撮影: 瀬子



イブキスズメ (スズメガ科)
標高 3,200m のみで確認. 撮影: 瀬子



ヒメナカウスエダシャク (シャクガ科)
亜高山自然林 (St. 2, 3) の典型種. 撮影: 瀬子



ベニモンマダラ (マダラガ科)
羽化直後. 国 RD 準絶滅危惧種. 撮影: 渡辺通人



キオビクロスズメバチ (スズメバチ科)
標高 2,000m 以上の自然林にみられる. 撮影: 萩原



シロオビホオナガスズメバチ (スズメバチ科)
本州では比較的標高の高い山岳地帯に生息する. 撮影: 萩原



スギハラギングチ (ギングチバチ科)
埼玉県 RD 絶滅危惧 II 類に選定されている. 撮影: 萩原



キスケギングチ (ギングチバチ科)
埼玉県 RD 準絶滅危惧. 既知の記録は青森、福井、埼玉. 撮影: 萩原